

月間 新月 ごはん

第 4 号

2004年9月
発行者
リトル・スター・レストラン
tel:0422-45-3331
www.little-star.ws

インターネット無線スポット



あります。

紅茶のずいじい喫茶店。 旬の紅茶づくりが 初秋の気分です。



残暑が続く今日この頃。それでも日陰はすっかり秋の空気、風の匂いも変わり、季節は確実に秋を迎えようとしています。
お茶の時間も、暑さや喉の渴きをいやすより、ゆっくりと繊細な風味を楽しむ季節。リトル・スター・レストランでは春に続いて、秋ならではの旬の紅茶を入荷しました。

紅茶の繊細な香りと味わいを、ぜひ味わっていただきたいと思えます。コーヒー党の方には当店オリジナルブレンドコーヒーをご用意。もちろん、お茶の時間には欠かせないお菓子も健在です。それでは、旬の紅茶のお話を、当店の紅茶とお菓子担当(別名・英国担当)フカザワから。

おいしい紅茶を入れるにはいくつものコツがありますが、一つにはよい茶葉を使うことです。今回はダージリンの紹介です。
ダージリンは私が一番好きな紅茶で、インドのダージリン地方で栽培されています。昼夜の寒暖差が激しいために、濃い霧が発生し、このため独特の素晴らしい芳香を持つお茶となります。春、夏、秋と年三回のクオリティシーズンがあります。三月〜四月に摘まれるファーストフラッシュ、五月〜六月に摘まれるセカンドフラッシュ、十月〜十一月に摘まれるオータムナル。それぞれ違った味わいがあります。
今はちょうど、セカンドフラッシュが届きました。セカンドは一番ダージリンらしさがあり、その香りを称して「ロスカテルフレーバー」とも言われるほどです。当店で、二つの農園の紅茶をお出ししています。引き続き、タルボ農園の紅茶もご用意していますので、三種類の紅茶をお楽しみいただけます。とにかくダージリンティーの香りの素晴らしさを実感してみてください。

マーガレットホープ農園 (07-2951)
甘く香ばしい香りと、しっかりしたコク。厚みのある奥深い味わい。

シンゲル農園 (06-88)
甘く爽やかな香りで、フランスのとれたオーガニックティー。(店内にある茶箱に入っているのはインディアンからやってきました)

※協力 株式会社リーフル

小星★人語

三十歳になったら本当にやりたいこととして生きていこう、と決めていました▼小学校の頃は、ファッションデザイナーになりたいと思っていました。当時読んでいた漫画に影響されていたのでしよ▼中学生の頃、学校の先生になりたいと思いました。しかしそれも「将来何になりたい?」と問われたときに、周囲を見回して興味のある職業に目をつけただけのことだったと、今となっては思います

▼高校生にもなると将来の夢はもっと現実的に考えなければならなくなります。しかし逆に「なりた職業」を具体的に挙げることは難しくなりました。自分の能力と憧れの職業を、はっきりと線で結ばなければならぬ年齢になっていたからだと思います▼二十歳から十年間、広告代理店で(途中からはフリーのプランナーとして)某大手食品会社の食品を「売る」ための仕事をしてきました。仕事は楽しく刺激的な毎日でしたが、それが「本当に自分のやりたいこと」なのかと考えると、答えは「否」でした▼「将来何になりたい?」と問われたとき、今も答えはありません。ただ誰かを少しでも「しあわせ」にする仕事をしたい、と思うだけです▼そして今、「本当にやりたいこと」を生業としています。心地よい空間とおいしい食事、という、小さくても確かな「しあわせ」を提供するという仕事です。この九月、三十一歳になります。なんとか、三十歳に間に合いました。(麻)



お店のロゴマーク、何度も描き直してくれました。



小さな星のすきま。

店の顔、看板。リトル・スター・レストランには3つの看板があります。お店のロゴマークを立体的に表現した立て看板。ビルの横から飛び出している小さな看板。そして毎日の日替わりメニューやその他様々なインフォメーションを告知する黒板の看板です。

地味で、目立たないと評判のこれらの看板ですが、私たちはとても気に入っています。目立たなくても、めざとく見つけて「素敵な看板ですね」と

お店の顔、看板。リトル・



相当横倒しにしても倒れない、実は起きあがりこぼしの構造になっているのです。

入ってきて下さるお客様もいらっしゃいます。看板としては、目立たないというのは弱点なのかもしれませんが、私たちは看板を作るにあたって、確固とした考えがありました。それは、派手で目立つ看板ではなく、十年たっても飽きない、時間が経てば経つほど味わい深くなるような、奇抜ではなく個性的な看板にしたい、ということでした。

そこで店長ミヤザキの古くからの友人、芸術家の行本詩麻氏と鍛冶屋である中澤恒夫氏に看板の制作をお願いしました。二人は友人であると共に、最も敬愛する職人でもありました。また、行本氏にはお店のロゴマーク、中澤氏には寂しかったお店の壁に棚を取り付けるための金具もお願いしました。

打ち合わせを重ねながらできあがっ



鉄の部分は中澤氏、銅と木の部分は行本氏によるもの。

てきた作品の数々は、想像以上に素晴らしい仕上がりに。全体的な印象はもちろん、細かな点まで念入りに作られているのが嬉しい限りでした。

何気なく通り過ぎてしまいがちな看板ですが、リトル・スター・レストランの「顔」には、確固たる理念とこだわりが反映されています。もしよろしければ、足を止めてしげしげと眺めてみて下さい。小さな新しい発見があるかもしれません。(麻)

看板を照らすライト設置中。



夜になっても光る部分が全然なかったので、後からランプも作ってもらいました。



高校生の頃、毎日お弁当を持って学校に通っていました。学食などがなく、購買部もなく、近くのパン屋さんがお昼にパンを売りに来るだけの食環境、クラスのほとんどがお弁当派でした。

「今日はどれと交換してくれるの」「私のお弁当を開いた直後でした。母の卵焼きと鶏の唐揚げは友人たちにも人気の品で、自分が食べる分を死守するのが大変だったことをよく覚えてます。このお弁当を作ら続けてくれた母



小さな星のごはん、 小さなこだわり。

vol.03

大きな玉子焼きと 鶏のから揚げ

こそが、リトル・スター・レストランの料理長なのです。

リトル・スター・レストランの厚焼き卵は卵五つを使い、ダシと砂糖でふっくら焼き上げたポリウム感たっぷり一品。熱々で食べても、お弁当に入れてもおいしい、甘い卵焼きです。焼きたてのふわっとした食感や甘い香りを楽しんでいただきたいので、作り置きはせず注文をお受けしてから銅製の卵焼き器で一本一本焼き上げます。食べきれない場合には、お持ち帰りもできますのでお申し付け下さい。

鶏の唐揚げは醤油・生姜・酒・スパイスなどを揉み込み、よく下味を付けてから片栗粉をつけて二度揚げしています。二度揚げすることで外はカリッと、中はジューシーに揚がるのです。レモンをじっくり搾って食べて下さい。高校の同級生に会うと、今でも「お母さんの唐揚げ食べたいな」と語らざるにはなるほどの逸品ぞい、一度おためし下さい。(麻)

ソムリエの本の



『お屋敷宮お散歩宮』
谷山浩子 サンリオ



『クレイジーケン夜のエアポケット』
横山剣 ぴあ



『荊の城』
サラ・ウォーターズ 創元推理文庫(上下巻)

布団に入っても、すぐ夢の世界に行けない時、谷山浩子「お屋敷宮お散歩宮」を開いてみる。夢の夢の夢の夢の...ずっと底まで連れて行ってくれる。おかしな世界なはずなのに、夢の中ではそれがおかしくないのはなぜだろうか。不思議な世界のお話には、実はたいせつなことが書かれていたりする。夢の世界も、あるいは真実の世界なのかもしれない。

初めて出会ったのは二年前、新宿の小さなライブハウス。他のアーティスト目当てで行ったライブで、対バンでクレイジーケンバンドに感電。「格好いいオッサンたち!」あの夜は眠れぬほど素敵な夜だった。で、ポール・カル剣さんの初の著書。歌はもちろん文章も独特な語り口、クレイジーでグッとくる。眠れぬ夜に、イイネ!イイネ!イイネ!

秘密の匂いはどこまでもページをめくらせる。演じる娘、閉じ込められた娘、騙り男。嘘をついているのは誰なのか?最後に笑うのは、騙し騙される中で少しづつ育っていく絆。泥棒一家に育てられ、詐欺の片棒を担がされる下町娘スウ。彼女の生き生きとした言動が十九世紀英国の古城に読者を引き込んでいく。読み出したら止まらない!ゴシックミステリー。

★今月のお題★

眠れぬ夜

テーマに応じたお薦めの本を紹介する「本のソムリエ」。今月のテーマは「眠れぬ夜」。秋の夜長、眠れぬ夜、ソムリエのおすすめは?

深澤圭子
Keiko Fukazawa
宮崎麻美
Asumi Miyazaki
神島あづさ
Azusa Kamishima

旬なお話

秋の夜長に
月を眺めよう。

何見て眺める
十五夜お月さん見て眺める

何見て眺める
十五夜お月さん見て眺める
月にごさぎつて見ているのでしょうか？科学的にはもちろん、いけません。でも、月を見ていると、本当にごさぎがおもちをついているように見えませんか？

今月は中秋の名月が見られます。中秋とは旧暦の八月十五日で、今年は九月二十八日にあたり、満月です。日本ではこの日、お月見をする習慣がありましたが、これは中国から伝わったものです。ススキ、団子、芋などを供えるのは、ちょうど農作物の収穫の時期と重なるため、収穫を祝う意味もこめられているそうです。現在の日本では、お月見といった風流なことをする人も減っているかもしれませんが、かくいう私もお月見をしたのはただ一度きりです。その一度でさえ、お月見もどきでした。数年前、奈良・京都と三泊三日のひとりの旅をしました。京都に泊まった夜が、ちょうど十五夜でした。一人で食事をするにもお店がわからず、夕食は折り詰め鮎を買って部屋で食べることにしました。途中で月見団



子を売っているのを見つけ、それとも購入。泊まった部屋の窓の外には邪魔な建物もなく、賀茂川の向こう側がよく見えました。真つ暗な夜空にはまあるい月。折しもテレビでは、文豪の愛した食卓といった内容の番組を放送していて興味があつたのですが、満月には勝てません。スイッチを切って、窓越しに空を眺めながら、風情ある夕食となりました。ささやかなお月見。

最近、夜空を見上げることが減った気がします。以前は、家への帰り道で、ベランダで、旅先で、よく空を見上げていました。数少ない知っている星座を見つけ、あとはただぼんやりと眺めていました。そして、月はどこか神秘的な感じがして好きです。ごまご細い下弦の月は、夜空がにんまの笑っているよう。流れる薄雲の間に見えるのは隠れる月。ぼんやりと傘をかぶった月。すばんと縦に切ったような半月。特に満月の美しさには、ほればれするものがあり、みとれてしまいます。その凜とした姿に、こちらも背筋が伸びる思いがします。月というのは自分の力で明るいのではなく、太陽の力を借りている、というような文を最近読み、当たり前ですが、あらためてそうだったなあと思えました。夜の暗闇の中、一人目立っているのに、どこか控えめな感じがするのはそのせいでしょうか。今年の十五夜のお天気はどうでしょうか。月のごさぎが見られるでしょうか。(圭)

「仕事展」
9月の中頃より「リトルスターレストラン」で絵の展示をする事になりました。仕事で描いた絵を展示する予定です。ぜひ観にいらして下さい。

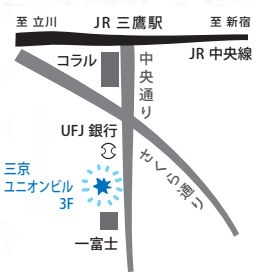
石井拓弥

インフォメーション

■石井拓弥の仕事展 (九月中旬頃より)
いつもこの新聞「ごほん」に「コマカット」を提供してくれている、親愛なるイラストレーター、石井拓弥氏のイラスト展を開催します。今回は石井氏が仕事で描いたイラストを中心に展示。キートンなどにどこかおかしい、真面目なのにどこか不真面目、石井拓弥の世界をお楽しみ下さい。(なお、展示は当店の展示環境が整い次第、九月中旬頃からとなります)

編集後記

だいたいオープンする時はどこでもチラシとかやるんだよ(で、後が続かない...)とか言われてた「毎月新聞ごほん」ですが、少しずつ遅れながらも、楽しみと苦しみながら第4号。またまたこれからだから。(お)



Little Star Restaurant
リトルスターレストラン Mitaka, Tokyo
東京都三鷹市下連雀 3-33-6
三京ユニオンビル3F
Tel/Fax 0422-45-3331

毎月新聞 ごほん ★ 発行: Little Star Restaurant ★ 編集人: 宮崎麻美 深澤圭子
★ デザイン: okayan(ganesa-studio) ★ 協力: 石井拓也 稗島ゆう子

<http://www.little-star.ws/>